



工藤 弘喜 議員

なんでこんなに1年で早いんだろう

# 問 気候変動・脱炭素化にどう取り組むか

## 町長 まずは本町の現状把握が重要

**今年の大雨被害と温暖化の関連性は**

**問** 今年の降ひょう・大雨による甚大な被害と地球温暖化との関連性についてどう捉えているか。

**町長** 明らかに気象の変化が表れていると感じられ、少なからず地球温暖化の影響を受けていると認識している。

**問** 現在取り組んでいる「第6次訓子府町総合計画後期重点プロジェクト」の課題でもあると考えるがどうか。

**町長** 気候変動・地球温暖化対策については、近年の国際的な動向や国内動向を踏まえ、脱



二酸化炭素吸収におおきな役割を果たす森林資源

炭素社会へ向けた取り組みの調査・研究について重点的に進めるべき施策として、後期重点プロジェクトのエネルギー対策の推進に新たに設定したものだ。

**農業のあり方にも関わる課題**

**問** 温暖化対策の取り組みは、本町の基幹産業である農業のこれからのあり方とも関わる課

題でもあると思うが。  
**町長** 温暖化対策の取り組みは、農業の今後のあり方と大きく関係するものと捉えている。日常生活のあり方で環境負荷低減が見込める具体的取り組みは町民全員で行うことであり、それらを今後詰めていくことと合わせ農業分野も連動して、本町で環境負荷低減の取り組みに関して専門家を招いた学習の機会を通じて、農業者と共に練り上げていかなければならない。

そのためには、経営として農業が成り立つことが大前提であり、環境負荷低減をいかにして両立させていくかという視点で推進していきたい。

一方、11月14日オホーツク総合振興局と管内18市町村が参加するオホーツク管内ゼロカーボン連携ネットワークが発足し、脱炭素化へ向けた情報共有を図り啓発活動や調査研究を行うとした。

**全町的にはどのような取り組みか**

今後国や北海道、北海道環境財団などからの情報収集も図っていく。

**問** 気候変動・地球温暖化対策、脱炭素化に向け全町的にはどのような取り組みを考へるか。  
**町長** ゼロカーボンは二酸化炭素の排出抑制はもちろん、再生可能エネルギーの活用、森林の二酸化炭素吸収源の確保などさまざまな要素を組み合わせなければ実現不可能であり、まずは本町の現状を把握することが重要であると考えている。ゼロカーボンの実現に向けては、行政だけではなく、町民や事業者などの取り組みも欠かせないため、説明会や学習

このほかに「インボイス制度実施による町の事業等への影響は」の質問をしました。



工藤議員の一般質問を視聴できます